

鏡徳寺報 号外 (平成三〇年六月)
年回忌法要について

寿楽田山 鏡 徳 寺
電話 0294(21)2049

年回忌法要について、鏡徳寺の作法をご案内いたします。

法事とは

そもそも何故、法事をするのでしょうか。

法事とは、ご供養の実践です。

ご供養の実践には様々な形がありますが、おおまかに「三種の供養」をご紹介します。

一つ目は「利供養(りくよう)」。故人へ何かしてあげたい、という心を「かたち」にして供えることです。お供物やお香、お花や燈明、お坊さん(「仏法を修行した人」)があげるお経など、五感で感じられるかたちでのお供えをご用意します。

二つ目は「敬供養(ぎようくよう)」。これは、ご先祖さまを敬い、大切にすることです。今いるあなたは先祖の誰が欠けても生まれません。全てのものは関わりあっている、という諸法無我の教えにも通じます。故人の生前を忘れず、自分の生き方にも繋げていくというご供養です。

三つ目は「行供養(ぎようくよう)」。行とは修行の行です。あなた自身が、故人が喜ぶ生き方を実践する、毎日の営みや行いそのものを供える、ということです。では、故人が一番喜ぶこと、願っていることは何でしょうか。それは「あなたが幸せに生き



る」ことです。また、あなたを支えている人・あなたに支えられている人にも幸せに生きてほしいと願っています。それはそのまま、ご本尊さまの願いなのです。

法事といえば、一つ目の利供養にばかり気持ちがいきがちではありますが、敬の供養・行の供養も是非、大事にしてください。

法事のお申し込みについて

◇法事の事前のご依頼は、電話で結構です。

電話の際「**施主名・どなたの何回忌か・希望月日・時間・連絡先(電話番号)・おおよその人数**」をお伝えください。

◇申し込みは先着順です。年次に配布する宝暦の年回早見表などを参考に、**半年から三ヶ月前**を目安にお申し込みください。尚、一年以上先のご依頼は受けすることはできません。

◇八月一日から十五日までは、施食会の準備や地域の他寺院の法要に随喜するため、年回忌法要を受けることができません。ご承知おきください。

当日、ご用意いただくもの

◇お位牌 風呂敷等きれいな布に包んで、大事にお持ちください。

◇お供物 ご本尊さまと故人にお供えいたします。

お供物代(お金)でも構いませんが、できれば故人に想いを巡らせて生前の好物(ただし生ものは出来るだけお避けください)などをご用意されると、より良い

ご供養になるでしょう。

◇お花 あるとより丁寧です。お供えの場所に限りがありますので、一束(一対ではなく)で結構です。

◇お布施 施主のお名前は姓名をお書きください。
◇お塔婆回向料 お布施とは別にお塔婆回向料として一本**四千元**を包んでお納めください。

お供物について

法事の前後に、故人の供養のためにお集まりいただいたご親族・お客様に、お茶やお菓子のお接待をすることもまた、施主の大切な役割です。ただ、ご自宅から全てのご準備をするのはなかなか難しいと思いますので、法要前のお接待については、お寺で最低限のご用意をしています。その際に、他の法事で供養されたお供物のお下がりの一部を供しています。

また、一部は日立市役所社会福祉課を通して、児童養護施設や子ども食堂等へ提供し、福祉活動の一助にしています。

どちらにも、仏行の布施(むさぼらない心)、回向(えこう・自分だけのものにせず、他に回し向ける)の実践で、これも大切な供養です。

お供えする方は勿論、お下がりをいただく方も、ぜひ供養の真心をもちたいものです。

作法について

◇お焼香 献じる回数**は二回**が一般的です。はじめ



に仏前で合掌礼拝し、それからお香を頂きます。

一回目を主香といい、右手の親指・人差し指・中指（この三本を淨指といいます）で香をつまみ、左手を添えて額の近くにかかるく頂き、念じ、香炉に焚きます。二回目は従香といい、添えとして加えるものですから念じたりせず、そのまま焚きます。最後にもう一度合掌礼拝して焼香は終わりです。

列席者の多い時などは、従香はせず一回のみで済ませてよいでしょう。

◇お塔婆

卒塔婆（そとうば）ともいいます。原語であるサンスクリット語では「ストウーパ」といい、仏塔という意味です。インドでは古くから空・風・火・水・地の五要素が万物を構成するとされ、この五つを象った形の塔を、修行の場、または仏舍利（仏さまのお骨）を納める場としてきました。有名な京都の東寺の五重塔も卒塔婆で、弘法大師空海の持ち帰った仏舍利を納めています。このように、供養・発願のために起塔することはとても古くからの作法の一つです。

前置きが長くなりましたが、皆さまが受け取られるお塔婆もまた、塔そのものを建立することは難しくあれど、ご供養の証という意味では同じです。

いつまでも建てて大事にしていたきたいものですが、雨風にさらされてみすぼらしく見えると粗末に扱いがちですから、鏡徳寺では、お地藏様の裏側に古いお塔婆をお納めする場を設け、折を見てお焚き上げ供養をしています。

代われない

山口県善福寺住職・茨城県鏡徳寺副住職



大野 徹史

私が子供の頃、私の父は仕事が多忙な時に「忙しくてトイレに行く暇がないよ。オイ徹史、私の代わりにトイレに行ってきてくれないか。それからお腹が減ったからトイレに行った後、私の代わりにご飯を食べて来てくれ」とよく言っていました。私は父の言葉を冗談のみに受け取り、「代わってやってもらっても自分でやったことにはならないよ」と笑いながら答えていました。

小学校の夏休みの終わる二日前、宿題にまったく手をつけてなかった私は、泣きべそをかきながら父や家族に代わりにやってもらおうと助力を求めたことがありました。父は「代わってやってもらっても自分でやったことにはならないよ」と、考えるそぶりもなくピシヤリと断りました。私は、心の中で「少しくらい手伝ってくれたっていいじゃないか」と不満に思いましたが、仕方がないので二日間ほぼ徹夜で眠い目をこすりながら、なんとか宿題をやり終えたのでした。

私はその後長い間、父が単にトイレの冗談を言い、宿題の助力を断っているだけだと思っていました。しかし、それは大きな間違いでした。大人になって親族の法事を欠席する旨を電話で父に伝えたときのことです。「法事に行けないから僕の代わりに拝んでおいてくれない？」と言った私に、父は「来られないのなら、その時いる場所で良いから自分で拝みなさい。食事や勉強と同じように他の人が拝んでも自分が拝んだことにはならないよ。自分が生きて行く上で大事なことは自分でやるしかないんだよ。」と言いました。

私は子供の時のことを思い出しながら、父の言葉の深さと重さに初めて気が付いたのでした。（曹洞宗テレフォン法話
平成三〇年 五月二十二日〜二十八日より）

☆曹洞宗では週替わりで電話にて法話をお届けしています。ぜひお聞きください。
鏡徳寺副住職も年二回ほど寄稿しています。
フリーダイヤル 0120-508-740